

陸軍演習場から生まれた町 <続篇>

OKマークのなぞを解く

千葉市花見川区に住んで 50 年になるが、地図を見るたびに不思議に感じていることがある。私が住む花見川区の北東端と隣の稲毛区の北端がなにやら怪しげな形をしている。左手の親指と人差し指で「OKマーク」を作ったような形になっており、その真ん中の空間に四街道市が割り込んだ形になっている。しかも、親指と人差し指の間に空隙がある。この辺りは、隣接する佐倉市・四街道市との境界地帯になっているが、陸続きの土地でこのような境界線が発生したのは何故だろう。(下図 ○印の部分) 一念発起して調べて見ることにした。



「OKマーク」の上側(人差し指)は千葉市花見川区宇那谷町(うなやちょう)。おまけにこの町は、北部では内山町とみ春野という二つの町を囲む筋のような細い形をしていて、南部では千葉市花見川区大日町・稲毛区長沼原町と四街道市鹿放ヶ丘(ろっぽうがおか)の間に挟まれた細長い何とも名状しがたい形をしている。

(宇那谷町の地図 <https://yahoo.jp/RgClYg>)

曲げた人差し指の位置を地形図で確認すると、勝田川の支流である小深川(こぶけがわ)の流れに沿った低地で、今では「川」という程の流れにはなっていない。大正から昭和初期の地形図を見ると、旧来の宇那谷の集落は人差し指の付け根のあたりにあり、この界限ではかなり大きめの集落だったようである。

下側(親指)は千葉市稲毛区小深町(こぶけちょう)で、最も細い場所では東西の幅が家一軒分程度しかなく一軒の家の敷地の中に境界線がある所もある。(小深町の地図 <https://yahoo.jp/cWTDjv>)

中央の空間は四街道市大日の一部と鹿放ヶ丘で、2本の指の間には微妙に空隙があり、東側の大日と接している。インターネット上の地図情報を、それぞれの町名を指定して見ると、特異な境界線の有り様がよくわかる。

(四街道市鹿放ヶ丘 <https://yahoo.jp/gwfHi5> 四街道市大日 <https://yahoo.jp/xvWVMVs>)

大正・昭和の地形図で確認し、現在の地図を重ね合わせて見ると、この親指の位置にも前述の小深川の流れがある。

下志津原陸軍演習場として使われていた海拔 25~30mの広い原野は、終戦後に下志津原開拓団が開拓に着手した。下志津原開拓団の中から、北側と東側の大日地区が個人経営に移行して分団した。残った南側の区画は満蒙開拓青少年義勇軍訓練学校のメンバーが中心となって開拓が進められ、後に鹿放ヶ丘となった。いずれの開拓団も、宇那谷川・小深川流域は手に入れなかったため、開拓対象領域から外れ「左手 OK マー

ク」地帯として残ってしまったというのが真相のような気がする。

結果から見ると、開拓組合を結成して演習場の敷地内を「陣取り」のように開拓地化して行ったのだろうか。そして、開拓の進展に合わせてるように開拓組合毎に共同体意識や地域集団としての結束が高まり、地域集落として育っていき、やがて「町」という形になって行った。

また、各々の開拓組合が開拓にあたった地域を眺めてみると、その地域の中には整然と基盤の目のように区画されて道路や農地が配置されているが、隣接する他の開拓組合の区画や元々存在していた集落との接合部についてはあまり配慮されていないように見受けられる。

山王開拓組合の開拓地（現在の山王町）は東西・南北にきれいに区画されているが、その西側の長沼原は北東から南西に走る縦系と北西から南東に走る横系になっている。千種も同じ方向を向いて区画されているが、これらは御成街道を基線として描かれたのかもしれない。

（山王町 https://yahoo.jp/b_wATV 長沼原町 <https://yahoo.jp/9p5ZqP>）

開拓組合から育った集落はやがて町となり、昭和29年の千葉市への編入となった。編入にあたり、区画整理・境界設定などをきちんと行なった上で町名を付ければ良かったのだが、不可解な境界線が生まれてしまった。行政側が主導で行えない事情があって、各開拓組合の意向に従った町作りとなってしまったのだろうか。あるいは、行政側の踏み込みを許さない何かの事情があったということなのだろうか。経緯はよくわからない。疑問は残ったが、この研究課題はこれにて終了とすることにした。

以上

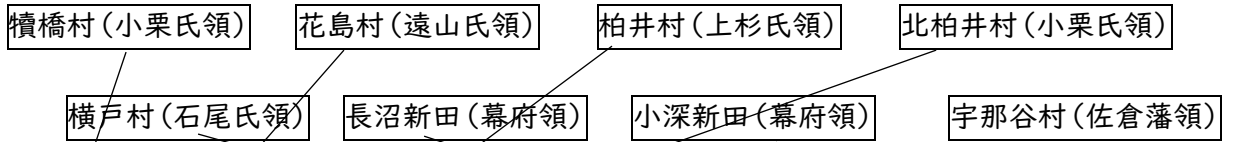
◆ 参考資料

1. 陸軍演習場跡にできた主な開拓地
2. 陸軍演習場となった村の今日までの足取り

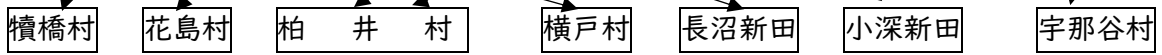


参考資料②:陸軍演習場となった村の今日までの足取り

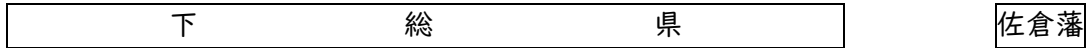
<江戸時代>



<明治元年>



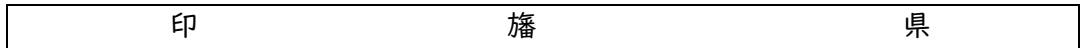
<明治4年>



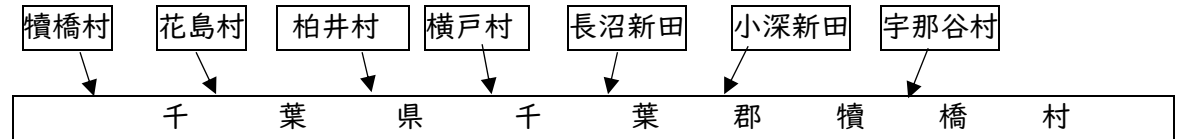
<明治4年>



<明治6年>



<明治22年> 千葉県印旛郡から千葉県千葉郡になった

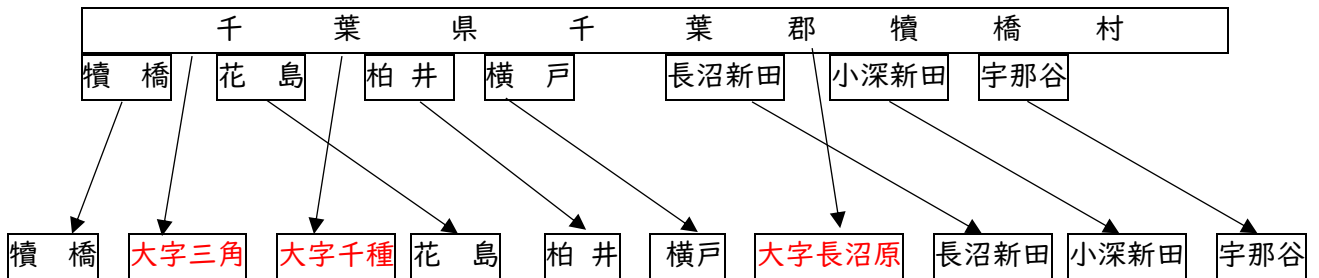


(元の村名は大字・小字になった)

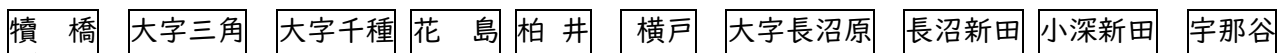


<昭和20年> 太平洋戦争終戦

<昭和27年> 旧犢橋村の一部が、「三角」「千種」「長沼原」という字地名を起立

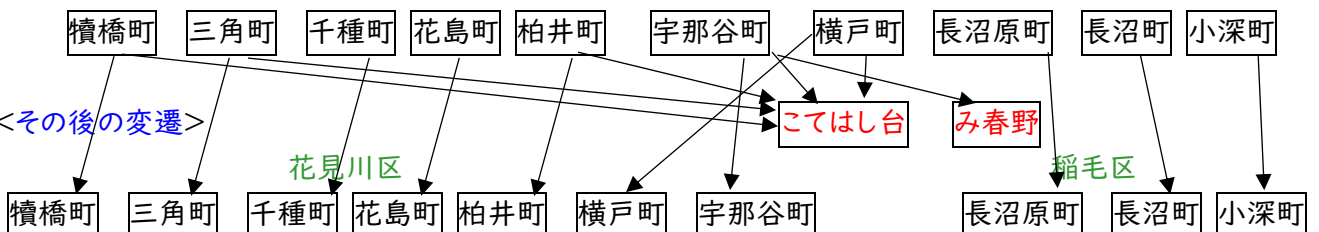


<昭和29年> 旧犢橋村の一部が、「大字鹿放ヶ丘」を起立し、「印旛郡千代田村大字鹿放ヶ丘」となった



鹿放ヶ丘(印旛郡) のちに印旛郡四街道町に編入(現在は四街道市)

<昭和29年> 旧犢橋村は千葉市に編入し、字地名は町名となった(町名は一部のみ記載)



<その後の変遷>